

2017年度

## 開成高校合格者インタビュー



左 K・Tさん（茨大附属中） 開成高・筑波大附属高・渋谷学園幕張高・西大和高合格  
右 Y・Sさん（水戸二中） 開成高・水戸一高合格

司会：まず、水戸アカデミーを選んだ理由を教えてください。

Y・S（以降Y）：少数精鋭で授業レベルが高かったからです。実際に早稲アカ難関の塾生はレベルの高かったので、教えあったりしていました。

K・T（以降K）：僕は、小学生の頃から夏期講習や冬期講習等に参加していました。他の塾にも行った

りしていたのですが、水戸アカデミーでは、周りが自分より出来ていることを小学生のときにすごく感じていました。最初の頃、できない自分が悔しかったこともあり、水戸アカデミーでやってやろう、と思っていました。

司会：二人とも初めは水戸一高が第一志望でしたが、あえて開成高を受けたのはなぜですか。

Y：中1のころは普通に水戸一高に行ければいいなと思っていました。でも、中2の終わりの頃、このままだ水戸一高に行くだけでは、入学後に苦しむかなと思いはじめた中、チラシで早稲アカ難関のことを知りました。早稲田アカデミーのことも聞いたことがあったので、じゃあ行ってみようかなってくらいの感じでした。

K：水戸アカに通っているうちに、月例テストとかですごく調子が上がってきているのが感じられました。その中、中2の終盤に都内の早稲田アカデミーで授業を受け、そのレベルの高さに驚いていたところ、中3になった時に水戸アカデミーで早稲アカ難関が開講されて、これは行こうってなりました。受験期間中は自分の性格では怠けるだろうとも思ったので、受かるか落ちるかの瀬戸際ぐらいの高校を目指してみようと思ったのがきっかけです。

司会：K君は開成高に合格したわけだけれど、なぜ水戸一高を受験しなかったのですか。



K：僕は、開成を受ける前から、水戸一高なのか開成なのか、ずっと悩んでいて、親とも何回も話し合いました。開成高の合格発表では、本当に落ちるかもと凄く緊張していたのを覚えています。でも受かるために、ものすごく努力してきたことも思い出しました。その中で合格した時の喜び等を感じた時、自分は開成に行きたいと強く心の中で思いました。

司会：結果的に、K君は受験高の全て受かったね。Y君が最終的に水戸一高を選んだ理由は何でしょう。

Y：水戸一高は、家から歩いて15分で行けるほど近い。それが一番だと思います。もともと水戸アカデミーにいたときは、開成はあまり考えていなかったですし、受けても記念受験程度と考えていました。ですから、受験のときもあまり緊張はしなかったです。さすがに実際に入試であんまり出来ていないと思ったときは沈みましたが、結果受かって、それで水戸一高で頑張るか、みたいな感じでした。やはり開成なので悩みましたが、毎日の通学時間等を考えると、総合的には水戸一高の方を選択しました。

司会：中3からの勉強でのスランプやぶつかった壁などお話しください。

K：僕は、中3からの勉強では、4月のアドバンス（首都圏難関高受験者用テスト）で結構いい点が取れていて、そこでかなり自信ができました。でもその後、5月くらいに気の緩み等が出た上に、夏休み等は結構だらけていました。夏休み明けから、学校とか塾とかの成績が伸びなくなって、そこがスランプというか、自分の中でまずいなと感じていました。12月のアドバンスでかなり盛り返した中で入試を迎えられたのは良かったと思います。今振り返ってみると、夏と秋が自分の中ではスランプだったなと思っています。

司会：そのとき、どうやって乗り越えたのですか。

K：その時期はかなり勉強するのが嫌になりました。でもやっぱり気持ち的には、目指したからには受かりたかった。だから、その時はやる気はなかったけれども、まだ時間はあると自分に言い聞かせていました。夏期合宿とかも含めて、なんとか自分に自信を持つようにしていました。

司会：Y君はどうでしたか。

Y：僕は基本的に部活をやりたかった。なので、その時期は入試というのは真面目に捉えてはいなくて、面倒くさいくらいにしか考えていませんでした。あまり勉強に対し3年間対処してこなかったのも、そのため基本となる土台が少なすぎたと思います。そのため、国語と英語は苦しみました。やはり数学が出来たのが一番大きかったと思います。国語、英語はスランプといえるレベルにも達していないくらいひどかったです。怠けている自分も長かったこともあり、きちんと入試モードに入ったのは11月、12月ぐらいだったと思います。部活をきちんとやった中で、ちゃんと切り替えられてはいなかったかもしれな

いですが、冬休みぐらいまでにはなんとかできるようにはなったと思います。

司会：振り返ってみて早稲アカ夏期合宿はどうだった

K：僕は、夏休みはかなりだらけていたこともあり、夏期合宿の5日間はものすごいハードでした。勉強を怠っていた自分でしたから。しかもそこで一番上のクラスに入り、周りのレベルがすごく高かった。自分はまだまだだと思い知らされました。今、夏期合宿を振り返ると、よく自分でも乗り切ったなど思えるほど辛かったです。しかし、そこで学んだことは、入試に生きてきましたし、自分がいかに努力していなかったかを認識させてくれました。辛かったのですが、自分に勉強の習慣をつけることなど、役立ちました。

司会：Y君は数学で1番をとったとか。



Y：それは自信になりました。早稲アカの先生が顔を覚えてくれたことは自信につながりました。ただ、英語が全然できませんでしたから。先生が何を言っているのかわからないぐらいで、実力不足を認識させられたことは大きかったと思います。いかに自分がこれまでだらけてきたかということを知られました。

司会：早稲アカの正月特訓はどうでした。

K：そもそも今まで正月に勉強するなんて経験してきませんでした。それもあり緊張もありました。でも、今までの自分の実力が測れる上に、開成クラスに入れていただけました。正月ですから普通遊びたいのですが、それを代償にして頑張ってきた。夏期合宿でだめだった国語も英語もかなり伸びていて、そのクラスでも戦えていました。入試直前時の自信にはかなりなりました。

Y：僕は、最初はそんなに乗り気ではありませんでした。正直行きたくありませんでした。家でゆっくりしたかったのですが、でも、わざわざ早稲アカの先生からお誘いの電話があり、親も自己ベストの状態を受験することを望んでいましたので参加しました。数学は前ほどダントツではなかったのですが、基礎はきちんとできていることは再確認できました。また、国語も英語もビリじゃないことは自信につながりました。真ん中よりもちょっと下ぐらいってだけで自信につながりました。夏期合宿よりも周りのレベルが上がっていたので良い刺激になったと思います。

司会：中3における水戸アカの教材・勉強の中で、国数英で良かったことは。

K：英語は、まず教材が良かったと思います。英語は基本、早稲アカオリジナルの単語・熟語テキスト、ベストチョイス、定着度確認テストなどで、入試前日の宿泊まで持って行くくらい良かったです。単語、熟語等は、入試開始直前まで勉強できるものなので、それらはすごい役に立ちました。国語は、同じ問題が出ることはないし、出る可能性も少ないのですが、記述力や読解力等を育むのに良かったですね。早稲アカオリジナルの「上位校への数学」はアドバンス。アドバンスが凄く難しい中、授業で取り扱う時間は短かった。ただ、あれを全部こなしていたら、自分はもうちょい数学できたかなと思っています。「上位校への数学・スタンダード」は簡単というわけではないのですが、アドバンスに比べたら全然違いますね。

\*「上位校への数学」は首都圏難関高向けの早稲アカオリジナル教材で、スタンダード、アドバンス、ファイナルの順番で難易度があがる。

Y：国語でいうと記述や選択問題等いろいろなパターンをやりました。長い文章で高度なレベルをやるので国語力は鍛えられたと思います。数学は、上位校への数学で終了時にやる先生が作った復習プリントが難しいレベルにまで対応していて、そこでの解き方や発想力等が入試の際に役に立ったと思います。英語は、基本的に暗記系のものをやらされていたので、ある程度、基礎力はついたと思います。

司会：では、最後に将来の夢を教えてください。

K：親が医者で、その姿を見て育ってきたので、医者への憧れがあります。やっぱり医者になるには医学部に行くしかない。今、大学の医学部を目指し、そこへ行くために努力している。高校入試で自分が受かりたい高校に合格できたことは、今の自分の自信になっています。これまでの受験の時のことを考えれば、あと3年ぐらいは頑張れるかなと思います。

Y：将来、何になりたいとか決まってはいません。とりあえずなりたいものを見つけるのが最初かなと思っています。なりたいものを決めた時に、どこにでも行けるように、今はひとまず最低限、勉強はしようかなって感じです。

司会：では、それぞれの夢に向けて頑張ってください。

